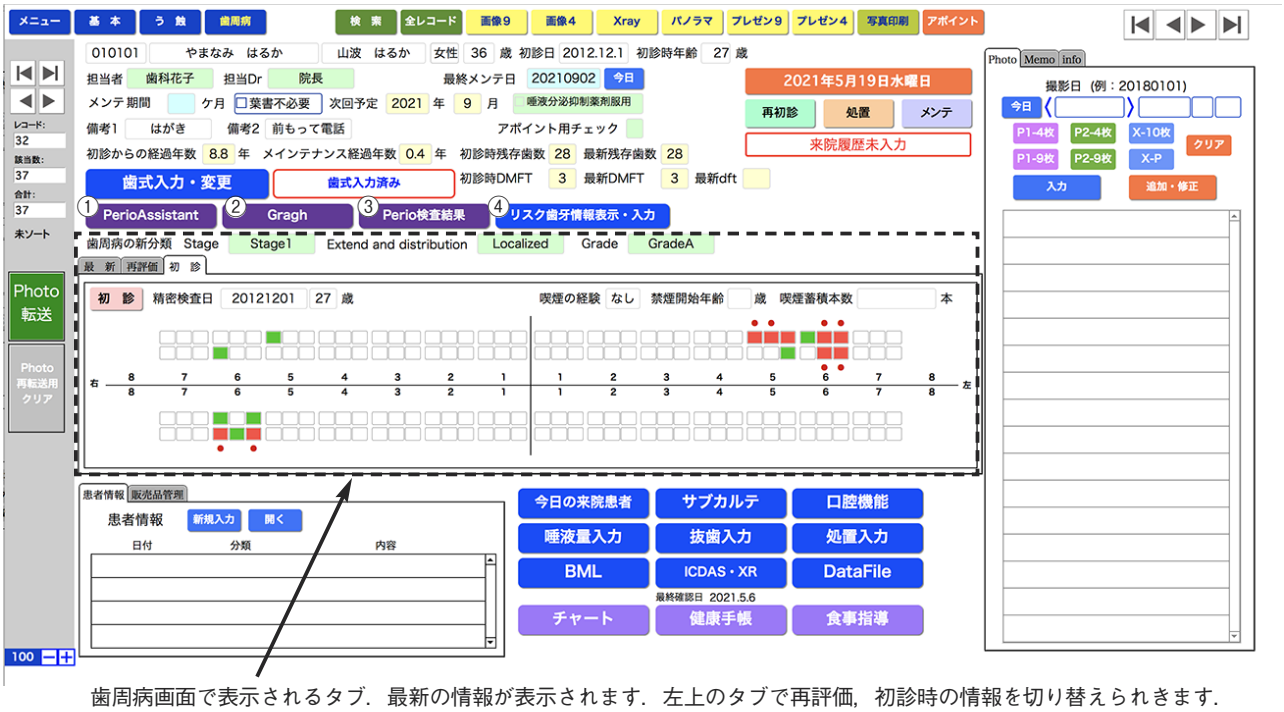
5　歯周病画面

メニュー画面の〈歯周病〉5 ボタンか共通ボタンの 歯周病 をクリックすると，歯周病に関する画面を表示できます．上部と下部は，う蝕画面の情報とほぼ同じです．



歯周病画面で表示されるタブ．最新の情報が表示されます．左上のタブで再評価，初診時の情報を切り替えられきます．

歯周病画面で入力するデータはPerioAssistant を使って入力します（ユーザー 3 の場合）．入力がされていない場合，タブ内は空欄になっています．

①：〈PerioAssistant〉

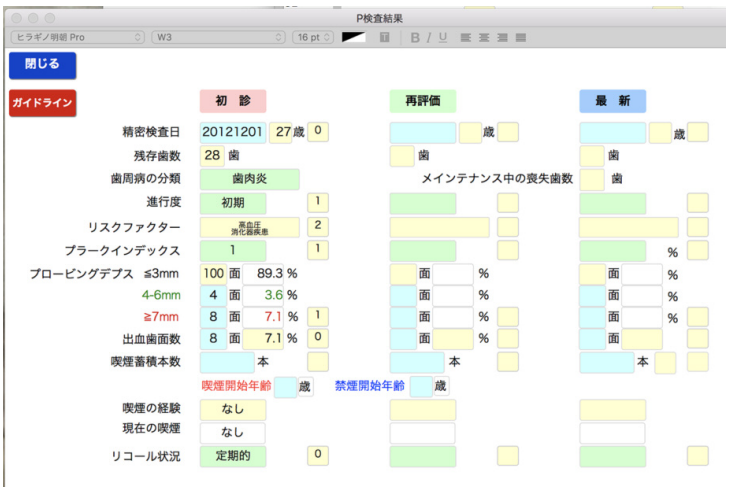
PerioAssistant に該当するカルテ番号がない場合は，カルテ番号と氏名が入力されたレコードが新規に作成されます．2 回め以降は該当するカルテ番号のデータが一覧表示されます．

②：〈Graph〉

出血歯面数とプラークインデックスの棒グラフが表示されます．過去の記録と比較でき，患者さんに視覚的に見せることができます．該当するカルテ番号のデータがない場合は，エラーダイアログが表示されます．

③：〈Perio 検査結果〉

PerioAssistant で入力した検査結果が表示されます（ユーザー 2 または 1 の入力と同じです）．



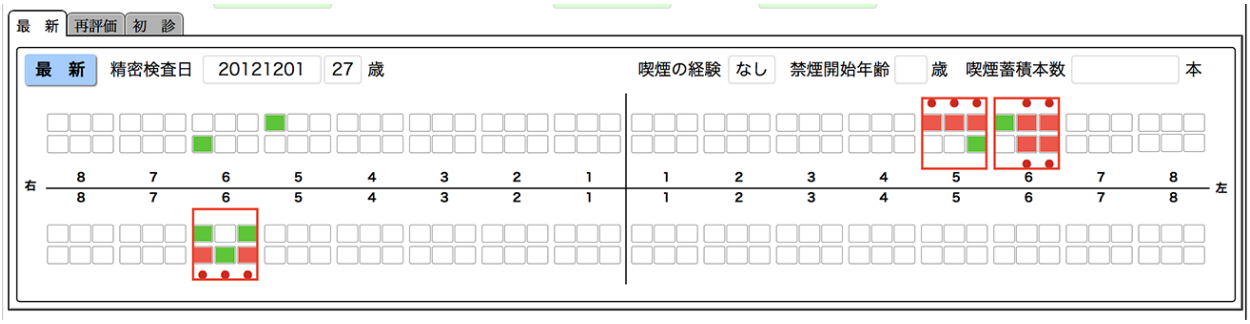
④：〈Risk 歯情報表示・入力〉

リスク歯の記録ができます．記録したい歯の上部の□をクリックすると●が表示されます．もう一度クリックすると●は消えます．

ここをクリックすると ON／OFF が切り変わります．リスクのある歯には，●が表示されます．



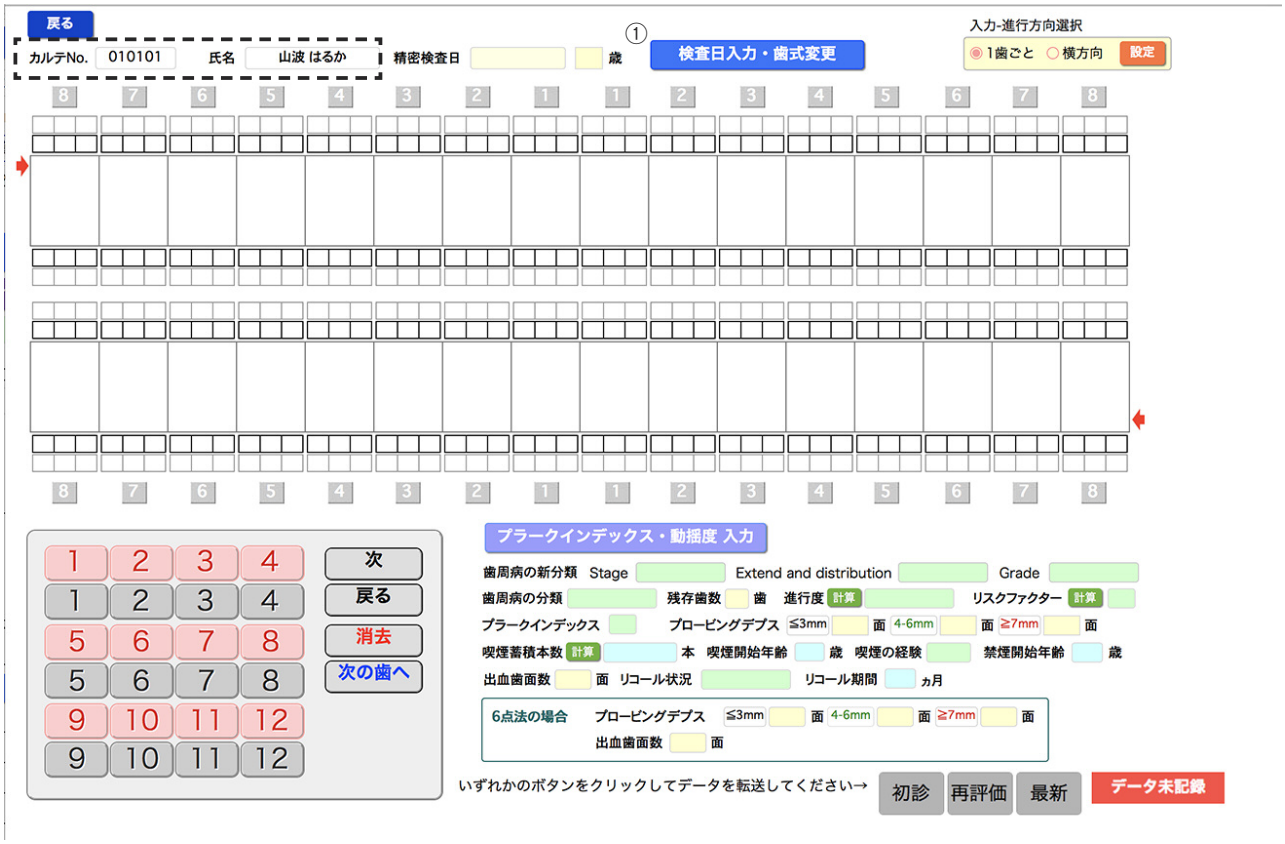
リスク歯は歯周病画面の最新タブに赤枠で表示されます．



注 歯周病タブは初診時には最新にも初診が表示されます．再評価が入力されると，最新も再評価のものになります．3 回目以降は初診，再評価タブはそのままで，最新のみ更新されていきます．

PerioAssistant 詳細データ入力

ウィステリアからはじめて PerioAssistant をクリックしてPerioAssistant を開くと，カルテ番号と氏名の表示された新規レコードが作成され，入力画面が表示されます．カルテ番号と氏名を確認してください．



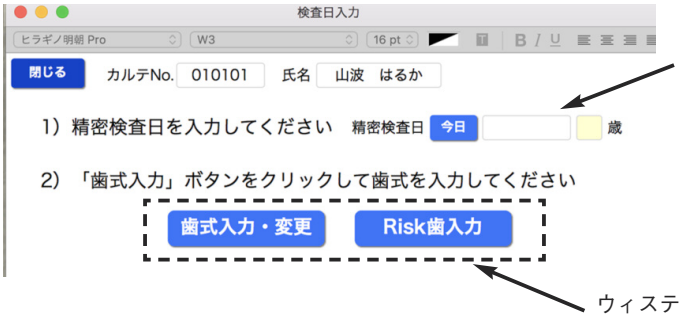
2 回め以降の場合は，Color 表示画面が表示されます．



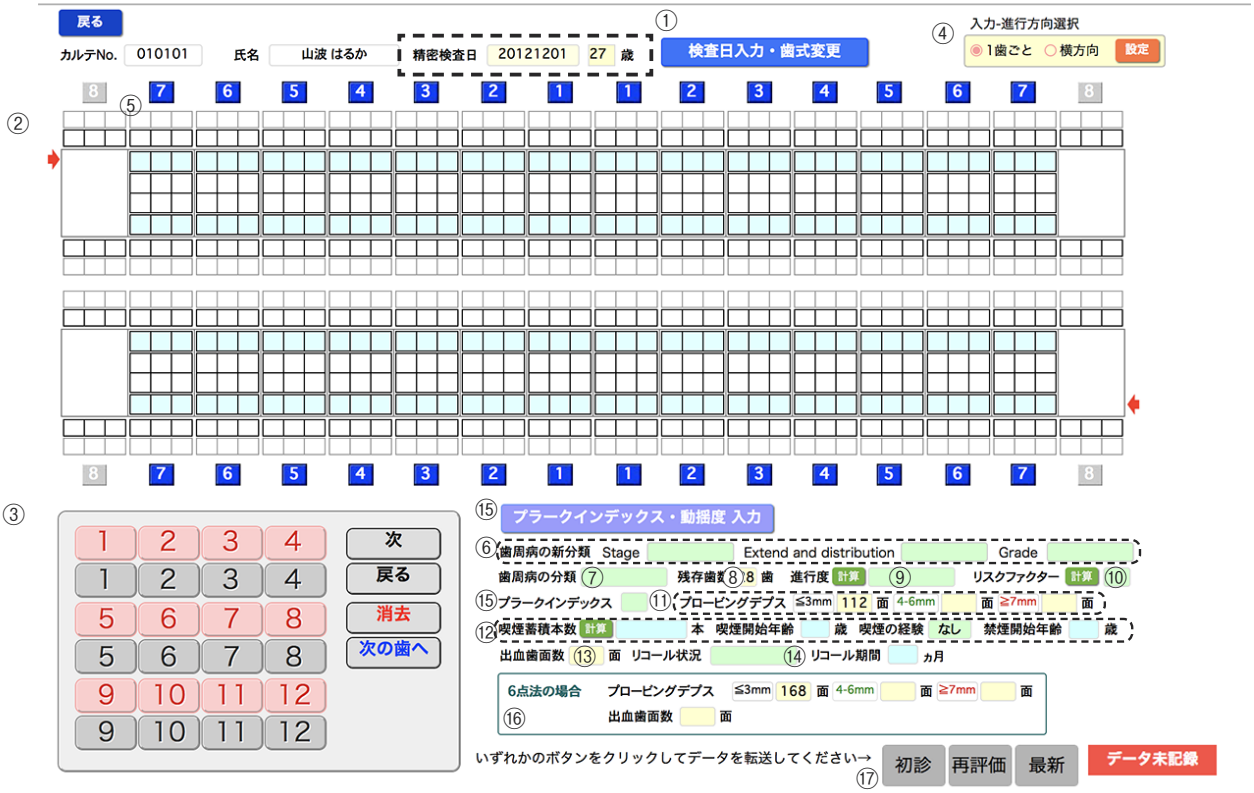
新規入力

①：〈検査日入力・歯式変更〉

検査日入力・歯式変更 をクリックします．検査日入力のウィンドウが開きますので，日付を入力します．今日ボタンをクリックすると当日の日付が入ります．年齢は自動で表示されます（基本画面で生年月日の入力がある場合）．ここからも「歯式入力・変更」「Risk歯入力」ができます（ウィステリアで入力済みの場合は不要です）．

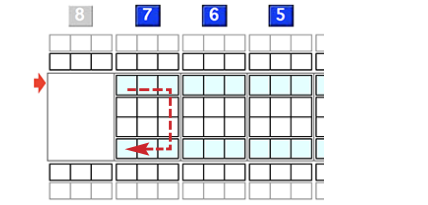


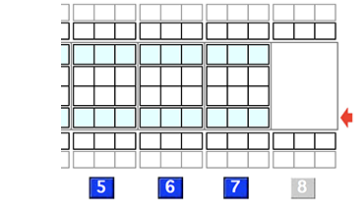
閉じる をクリックします．PerioAssistant 入力画面に精密検査日と年齢が入力されます．欠損がある場合は，入力フィールドが白くなります．ここでは智歯が白くなっています（注 智歯は残存歯には数えません）．



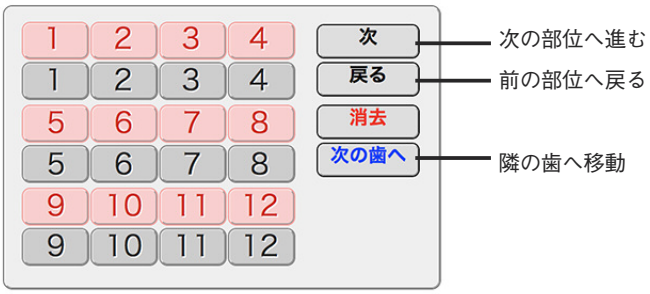
②③：〈プロービング値〉〈入力数値ボタン〉

右上 8 遠心（左の赤い矢印）から入力していきます．③の数値ボタンを使用するとマウスから入力が行えます．数値をクリックし入力すると，順に次の部位へカーソルが移動します．〈次の歯へ〉をクリックすると，隣の歯へ移動します．





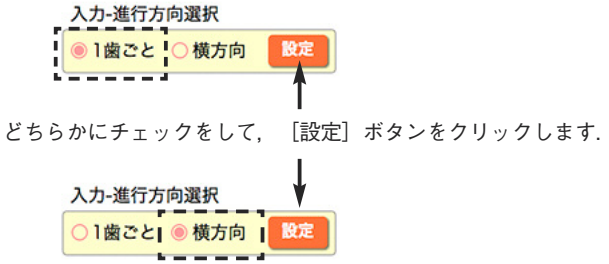
出血のある場合は赤い数値をクリック，出血がない場合は黒い数値をクリックします．



④：〈入力進行方向選択〉

詳細入力のカーソルの移動を 1 歯ごとまたは横方向へ移動するか選択できます．横方向を選ぶとカーソルは下のように移動します．

初期設定は 1 歯ごとになっています．



⑤：〈出血点〉〈分岐部等その他〉入力

出血点を入力します．数値ボタンで入力するときに，赤い数値を入力すると該当箇所に「●」が表示されます．ボックスを直接クリックしても「●」は表示されます．

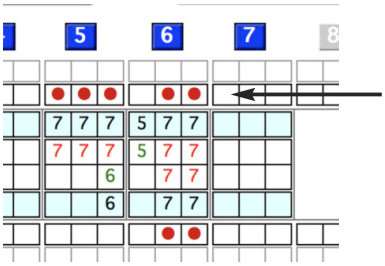
分岐部等その他，出血点以外の入力ができます．フィールドをクリックするとドロップダウンリストが表示されます．

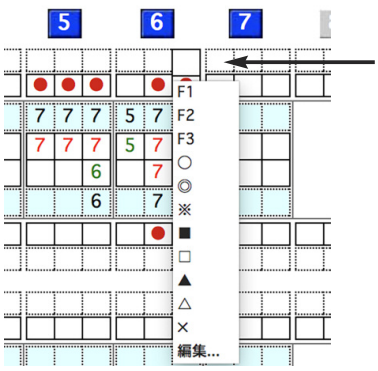
例）●：排膿

▲：フレミタス

×：保存不可　など

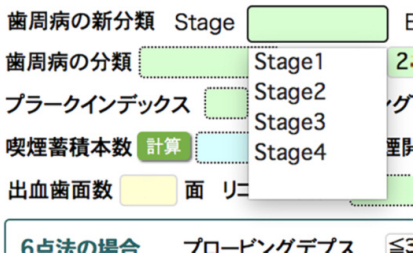
プルダウンされる内容は「編集...」から値一覧を編集可能です．



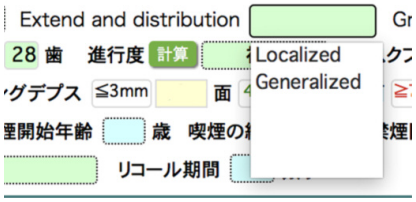


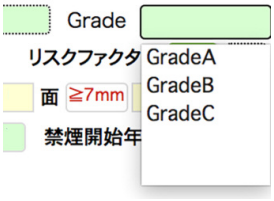
⑥：〈歯周病の新分類〉

　歯周病の新分類を記録できるようにしました．Stage，Extended and distribution，Gradeの各フィールドをクリックするとドロップダウンリストが表示されますので，該当するものを選びます．



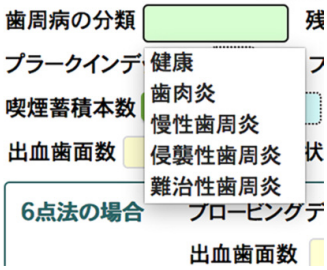
㊟ 歯周病の新分類は 2018 年 6 月にアメリカ歯周病学会（AAP）・ヨーロッパ歯周病連盟（EFP）より公表されました．





⑦：〈歯周病の分類〉

　フィールドをプルダウンすると歯周病のタイプが表示されます．健康，歯肉炎，慢性歯周炎，侵襲性歯周炎，難治性歯周炎の 5 つに分類されます．該当するものを選びます．（㊟ 参照）



⑧：〈残存歯数〉

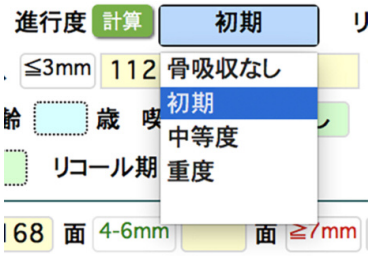
　歯式入力で残存歯数はカウントされています．自動で表示されます．

㊟ 歯周病の分類は，2.2 以前のウィステリアでは 4 分類で表示されていました．2.2 以前の《ウィステリア》をご使用の方はデータのインポート終了後，初期設定画面の「PerioAssistant にデータを移す」ボタンをクリックすることにより変換されます．“成人型歯周炎”は“慢性歯周炎”に，“早期発現型”は“侵襲性歯周炎”に変換されます．ただし，“健康”は入力されません．

⑨：〈進行度〉

各歯における歯周病の進行度を下記に沿って算出し，全歯の平均で算出します．フィールドをプルダウンして，該当する項目を選びます．

0：骨吸収なし
1：歯根の 1/3 未満の骨吸収（初期）
2：歯根の 1/3 以上 1/2 未満の骨吸収（中等度）
3：歯根の 1/2 以上の骨吸収（重度）



または 計算 をクリックして計算画面から入力もできます．

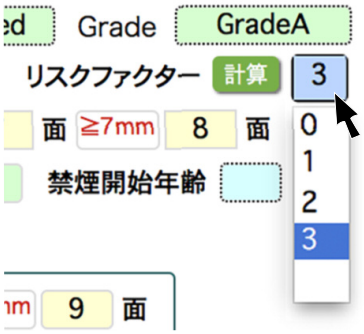
注 0〜3 の数値はウィステリア歯周病画面に反映される集計用の値です

⑩：〈リスクファクター〉

危険因子の数で分類します．危険因子は，歯周病に影響を与える全身疾患の数で判断します．フィールドをドロップダウンして入力します（ファクターが 3 つ以上ある場合も 3 を選択します）．

計算 をクリックし，計算画面で具体的な因子をチェックすることができます．該当する項目にチェックを入れると，因子個数が自動表示されます．〈戻る〉をクリックし，元の画面に戻ります．リスクファクター欄に表示されていることを確認してください．

リスクファクターが何もない場合は「0」を入力してください．



⑪：〈プロービングデプス〉

全歯面数を 3mm 以下，4-6mm，7mm 以上に分けて表示されます．②でプロービング値を入力をすると集計されて表示されますので，入力の必要はありません．

⑫：〈喫煙蓄積本数〉〈喫煙開始年齢〉〈喫煙の経験〉〈禁煙開始年齢〉

喫煙蓄積本数は，検査時までの蓄積本数を入力します．喫煙本数 /1 日×365×喫煙年数で算出します．

計算 をクリックして，計算画面から表示させることができます．

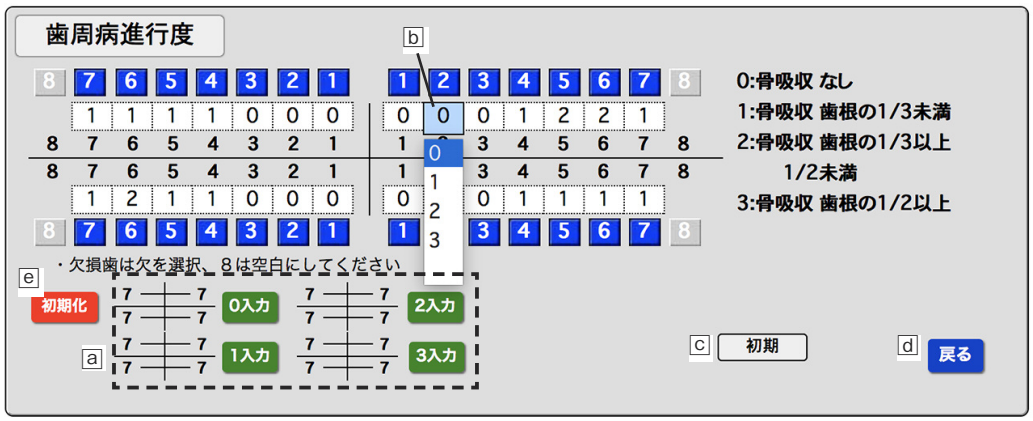
喫煙開始年齢は，喫煙を始めた年齢を入力します．喫煙蓄積本数で計算画面を使用した場合は，最初の喫煙年数に入力した年齢が，自動で表示されます．

喫煙の経験の入力は必要ありません．喫煙開始年齢を入力すると自動的に〈あり〉が表示され，空欄の場合には〈なし〉が表示されます．①〈精密検査日〉が入力されていないと表示されません．

禁煙開始年齢は，喫煙者だった人が禁煙を開始した年齢を入力します．

進行度の計算

計算 ボタンをクリックすると「進行度」「リスクファクター」「喫煙本数」の計算画面が表示されます．計算は各項目ごとに行います．ここでは上段の歯周病進行度に入力します．

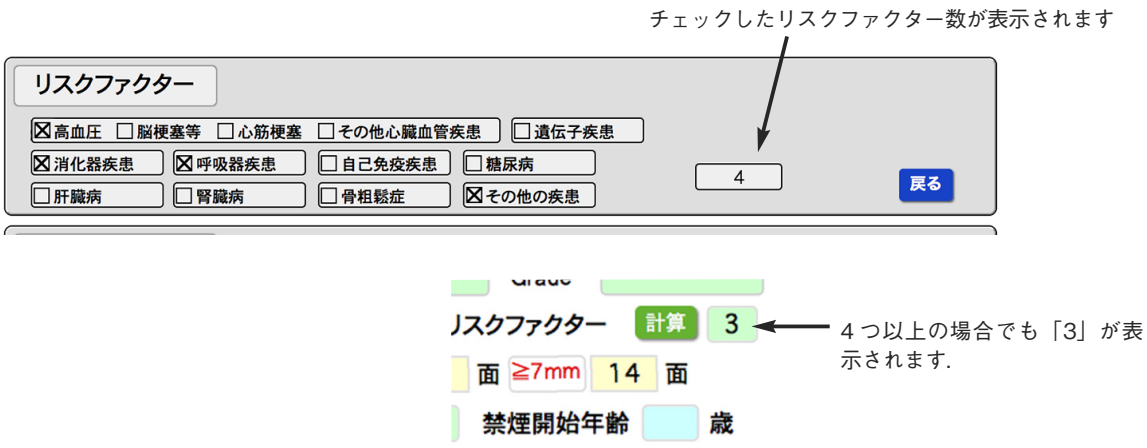


a のボタン群は，0入力 全歯が骨吸収のない場合，1入力 全歯が歯根の 1/3 未満の骨吸収（初期）の場合，2入力 全歯の歯根の 1/3 以上 1/2 未満の骨吸収（中等度）の場合，3入力 全歯の歯根の 1/2 以上の骨吸収（重度）の場合に使用します．クリックすると，すべての欄に該当する数値が入力されます．歯によって数値が異なる場合は，b のようにそれぞれの欄をクリックして，ドロップリストから該当する値を選びます．すべての欄を入力すると c に進行度が表示されます．初期化 をクリックするとすべて削除されて全歯空欄になります．戻る で元の画面に戻ります．

注 欠損歯は歯番号がグレーになり，入力欄は非表示になります．

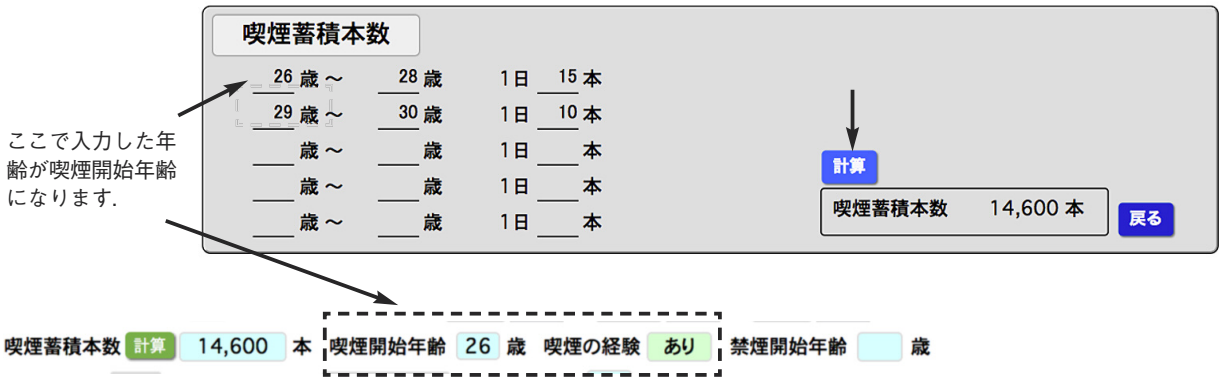
リスクファクターの計算画面

計算画面の中段にリスクファクターの入力欄があります．該当する項目にチェックを入れます．チェックれた項目数が右の枠内に表示されます．戻る で元の入力画面に戻りますが，リスクファクターが 4 以上あっても，表示は「3」になります．



喫煙蓄積本数の計算

計算画面の下段に喫煙蓄積本数の入力欄があります．喫煙年齢と一日あたりの平均喫煙本数を入力し 計算 をクリックします，喫煙蓄積本数が更新されたことを確認して． 戻る で元の入力画面に戻ります．

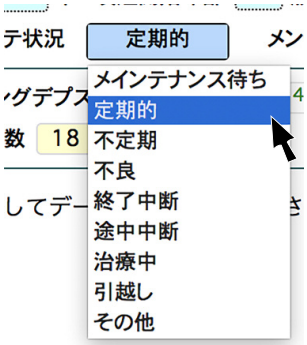


⑬：〈出血歯面数〉

⑤で入力をすると自動で表示されますので，入力の必要はありません．全歯面数におけるプロービング時の出血部位の歯面数合計になります．

⑭：〈メインテナンス状況〉〈メンテ期間〉

メンテナンスの状態を，〈メインテナンス待ち〉〈定期的〉〈不定期〉〈不良〉〈終了中断〉〈途中中断〉〈治療中〉〈引越し〉〈その他〉の９つに分類します．フィールドをクリックするとプルダウンしますので，該当する項目を選びます．



メインテナンス間隔を入力をします．ここで入力しておくとデータ転送時にウィステリアのリコール期間にも入力されます．



⑮：〈プラークインデックス・動揺度〉

全歯面数におけるプラーク付着部位の割合（%）で分類します．下のように 0 から 3 のカテゴリーに分類します．プラーク付着部位の入力をします．

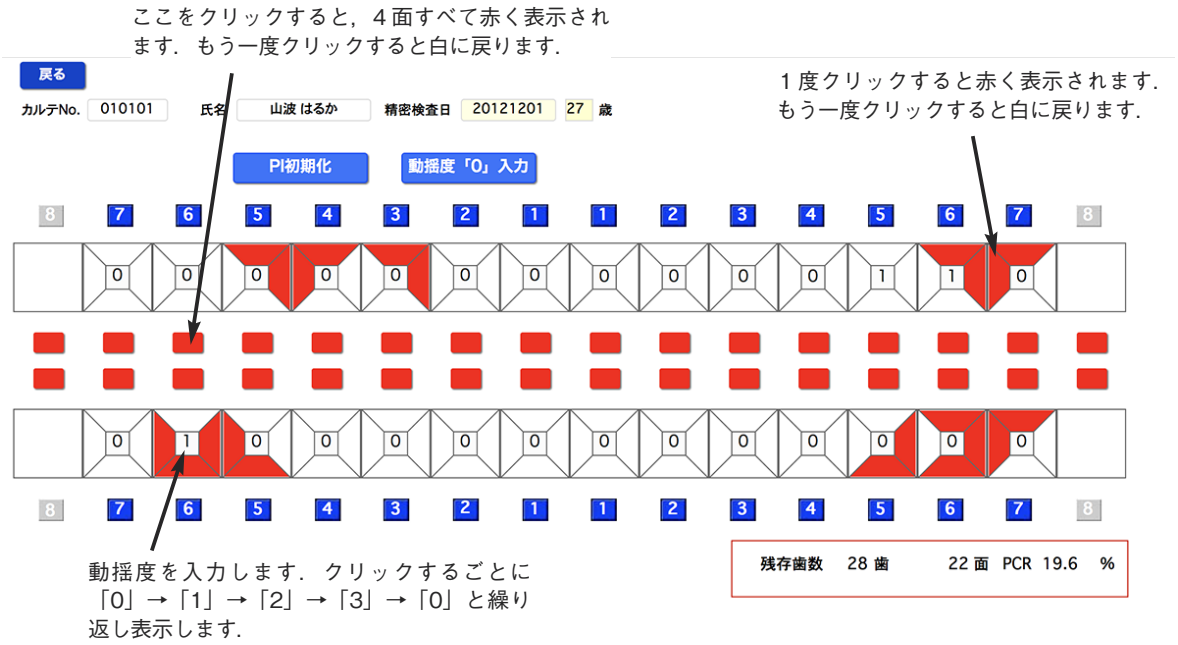
0：15%未満
1：15%以上 30%未満
2：30%以上 50%未満
3：50%以上

プラークインデックス・動揺度 入力 をクリックすると付着部位入力画面が開きます．

プラーク付着部位をクリックすると赤く表示されます．付着部位をすべてチェックします．PI初期化 をクリックすると全歯が白に戻ります． をクリックすると４面に赤が表示されます．ただし赤くなっている箇所がある場合は反転して白になります．

中央部分は動揺度を入力します．個別にクリックするごとに「0」→「1」→「2」→「3」→「0」と繰り返し表示します．動揺度「0」入力 をクリックするとすべての歯に「0」が入力されます．

すべて入力したら，戻る ボタンで元の画面に戻ります．⑮のプラークインデックス欄にカテゴリー分類が入力されます．右下囲みに，〈残存歯数〉〈付着歯面数〉〈割合〉が表示されます．



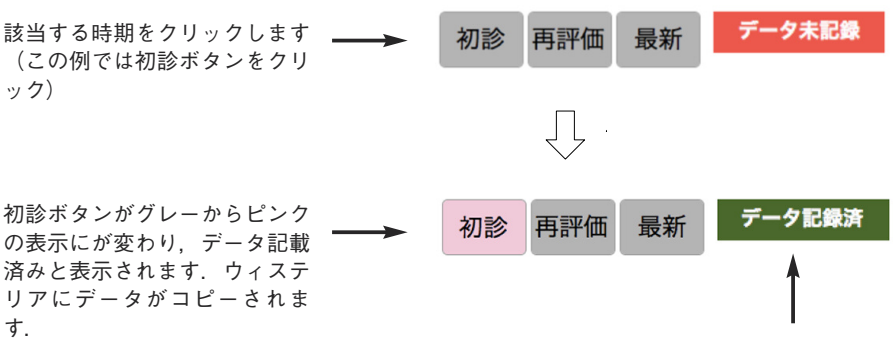
⑯：〈6 点法の場合〉

6 点法で入力したプロービングと出血面数をカウントし，表示します．

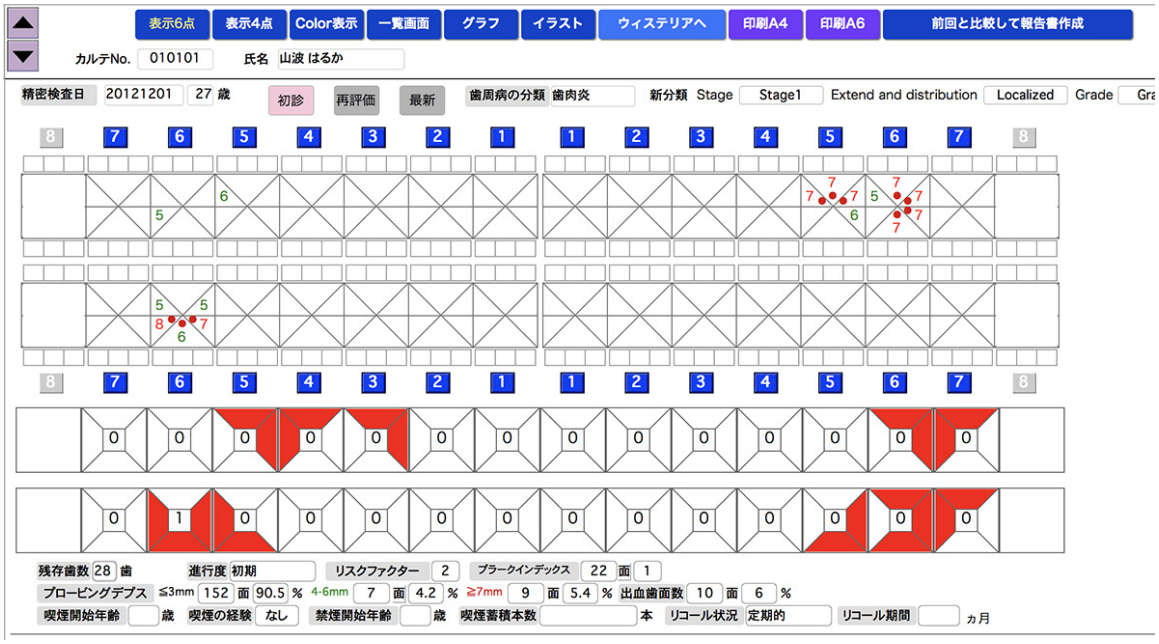
⑰：〈初診〉〈再評価〉〈最新〉ボタン

すべてのデータを入力後，該当する時期［初診］［再評価］［最新］ボタンをクリックします．〈表示画面 6 点〉に移動し，ウィステリアにデータがコピーされます．このコピーと同時に［再評価］の場合は《来院履歴》検査日と「処置」，ウィステリアの最終メンテ日が更新されます．

このボタンはをクリックしないとデータが保存されません．必ずクリックしてください．

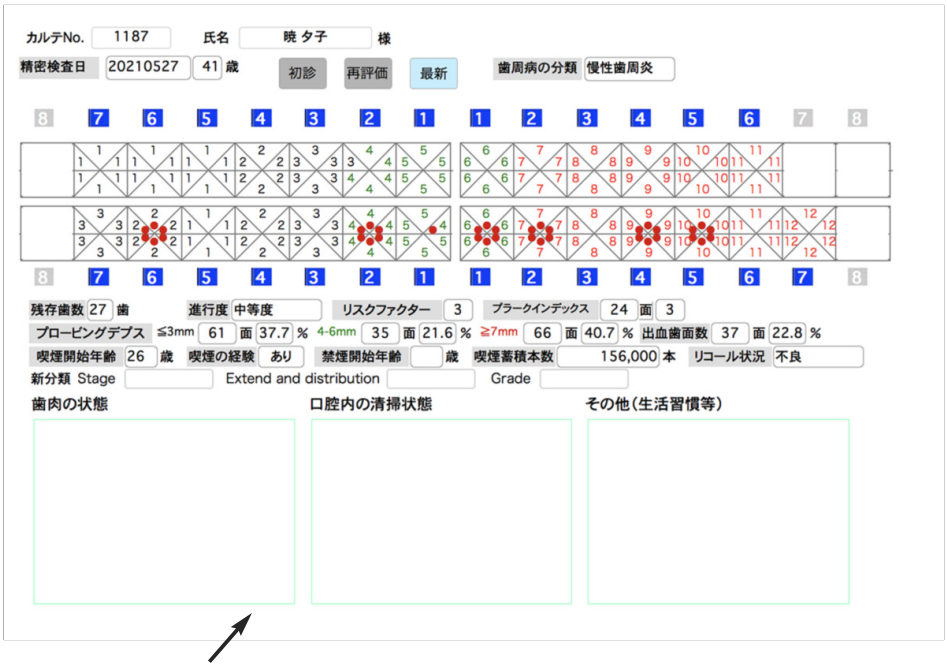


入力画面から［初診］[再評価]［最新］ボタンをクリックすると「表示 6 点」の画面が表示されます．［初診］ボタンをクリックした場合には，［初診］がピンクになります．［再評価］はグリーン，［最新］はブルーになります（未入力の場合はグレー）．下段には，プラークインデックスが表示されます．



表示 6 点画面

印刷A4 印刷A6 ボタンをクリックすると 6 点表示の印刷ができます（A4 または A6 サイズ）．



プリント後コメントを記入して患者さんに渡すことができます．

２回目以降の入力

２回目以降はウィステリアで PerioAssistant をクリックすると，PerioAssistant の「Color 表示画面」一覧が表示されます．



Color 表示画面　該当するカルテ番号のみ一覧表示されます

新規入力 をクリックして入力画面を開きます．新規レコードが作成され，入力画面が表示されます．



前回の内容を複製，歯式・Risk歯を変更する場合は，歯式変更・前回データの複製 をクリックして，検査日入力複製ウインドウを開きます．



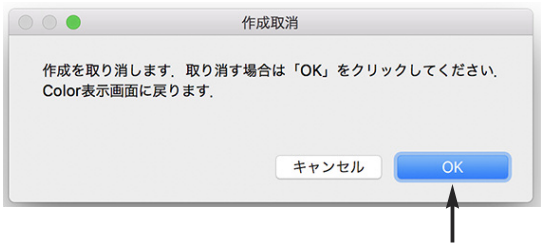
当日の日付が入力されています．変更する場合は西暦 8 桁で入力します．歯式やリスク歯に変更がある場合は，歯式入力・変更 Risk歯入力 ボタンをクリックして変更します．設定後，閉じる をクリックします．このとき，前回のデータが複製され，入力画面に戻ります．最新データを更新する際，変更点のみ修正ができるので便利です．

［再評価］［最新］ボタンはグレーになっています．入力後，2 回目は再評価，3 回目以降は［最新］ボタンをクリックします．

このとき，ウィステリアにデータがコピーされると同時に，再評価の場合は，《来院履歴》に検査日の日付と『処置』，最新の場合には，来院履歴に検査日の日付と『メインテナンス』，ウィステリアの〈最終メンテ日〉に検査日の日付が入力されます．PerioAssistant 入力より先に来院履歴が更新されている場合は，入力されません．

新規入力 をクリックしてから，取り消す場合は左上の 作成取消 をクリックします．確認のダイアログがでますので，［OK］をクリックします．作成されレコードは削除されます．

注 1 度削除したレコードは元に戻せません．

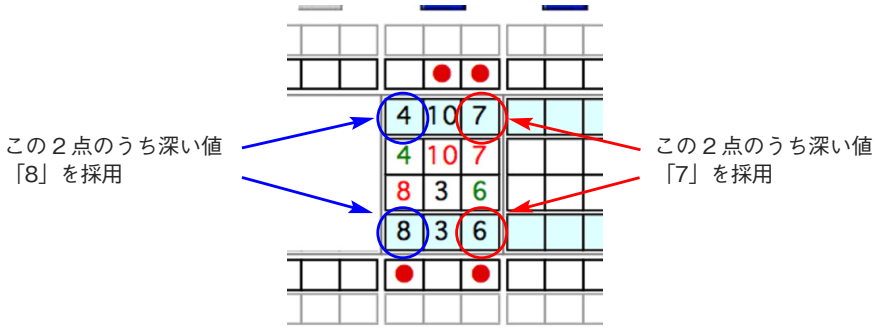


◆ 6 点法・4 点法について

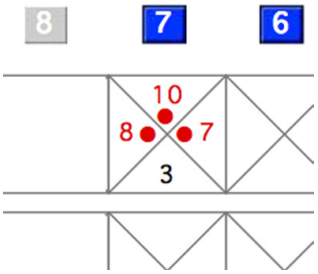
プロービング値（盲嚢測定値）は，本来ウォーキングストロークにて測定した値を 1 歯あたり 4 点または 6 点で記録するもので，6 点法が必ずしも精密になるものではありませんが，保険診療のとりきめ対応してPerioAssistant の詳細入力は〈ウィステリア 3.1.1〉より 6 点法に変更されました．旧バージョン（ver.3.1 以下）の 4 点法のデータとの整合性を保つため，ウィステリアの集計は 6 点から深い 4 点を選んで集計します．したがって 6 点法で入力した数値は以下のように表示，カウントされます．

■4 点法への変換について

・6 点で入力したデータの隣接面の 2 点のうち深い 1 点を採用します．
・出血歯面数は，隣接面のうち，どちらかに出血が認められる場合は，「1」とカウントします．隣接面どちらにも出血が認められる場合も「1」とカウントします．
・《ウィステリア》では，4 点法でカウントした数値を〈歯周病画面〉のデータに表示し，集計します．



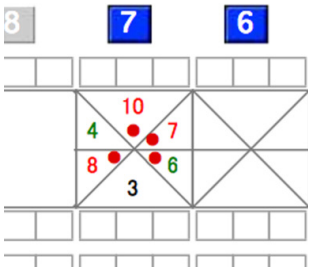
表示画面 4 点での表示



プロービングデプス（残存歯 28 の場合）

≦3mm	109 面
4-6mm	0 面
≧7mm	3 面
出血歯面数	3 面

【参照】6 点法の表示，カウントでは下のようになります．



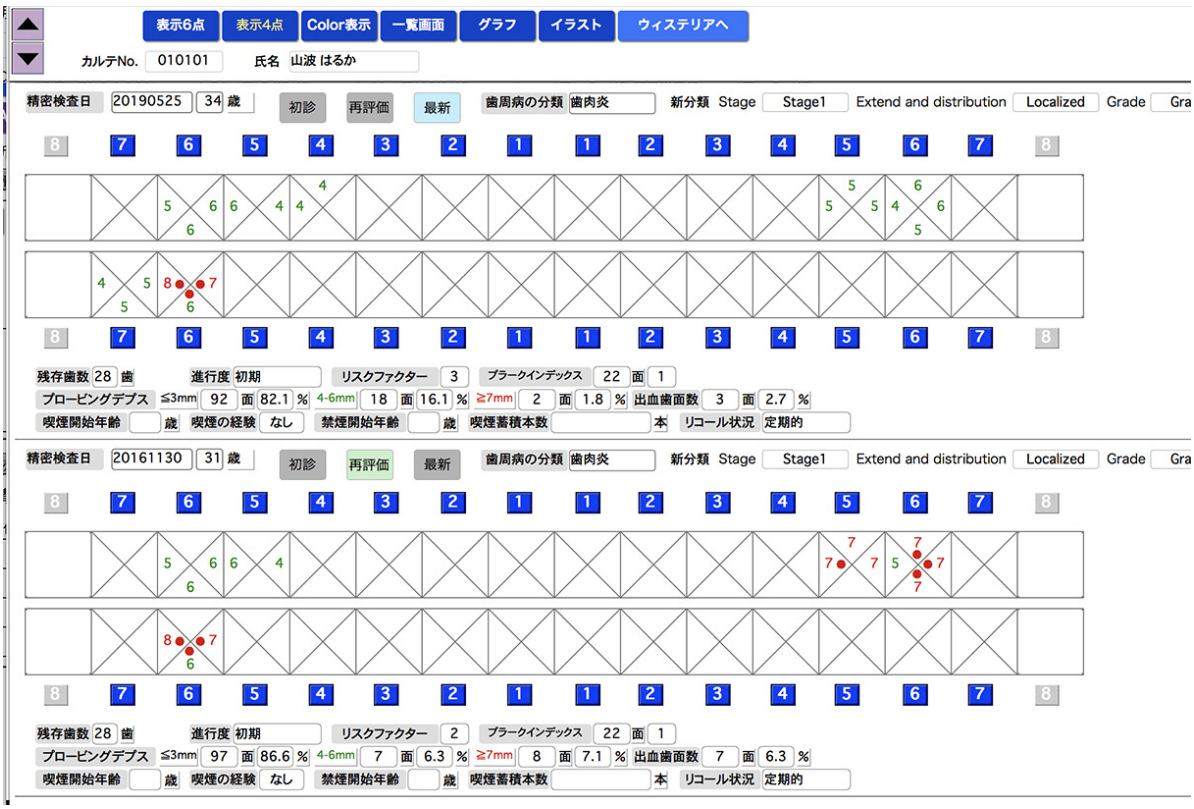
プロービングデプス（残存歯 28 の場合）

≦3mm	163 面
4-6mm	2 面
≧7mm	3 面
出血歯面数	4 面

PerioAssistant その他の画面

〈表示 4 点画面〉

4 点表示画面です．ウィステリアの集計ではこの数値を使用します．

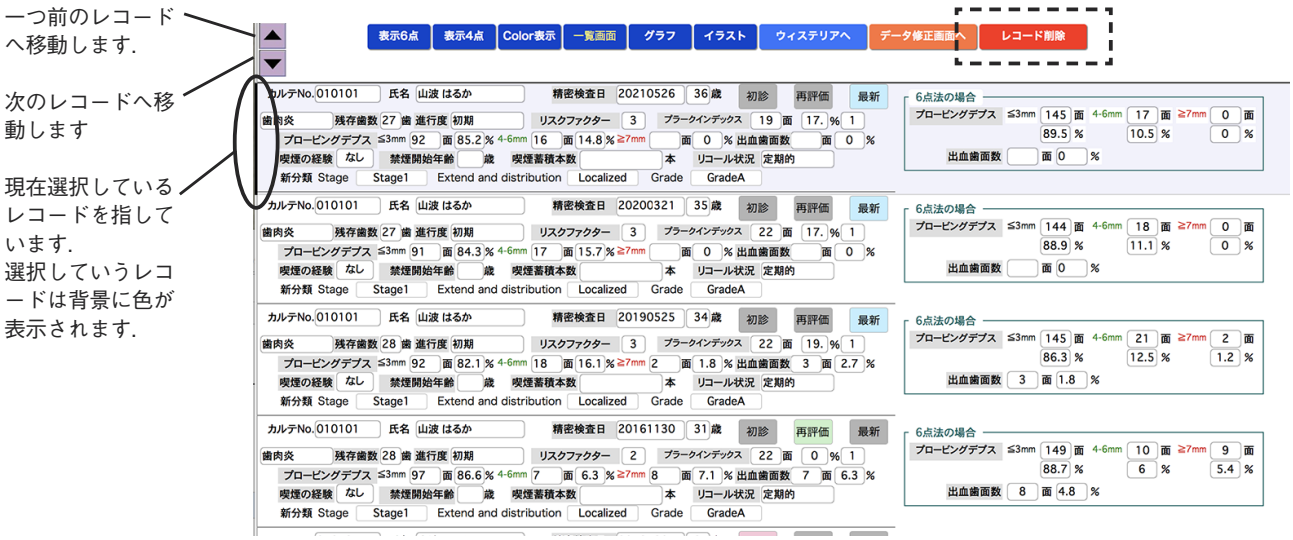


〈一覧表示画面〉

歯周病検査結果を一覧で表示します．6 点法の数値も表示されます．

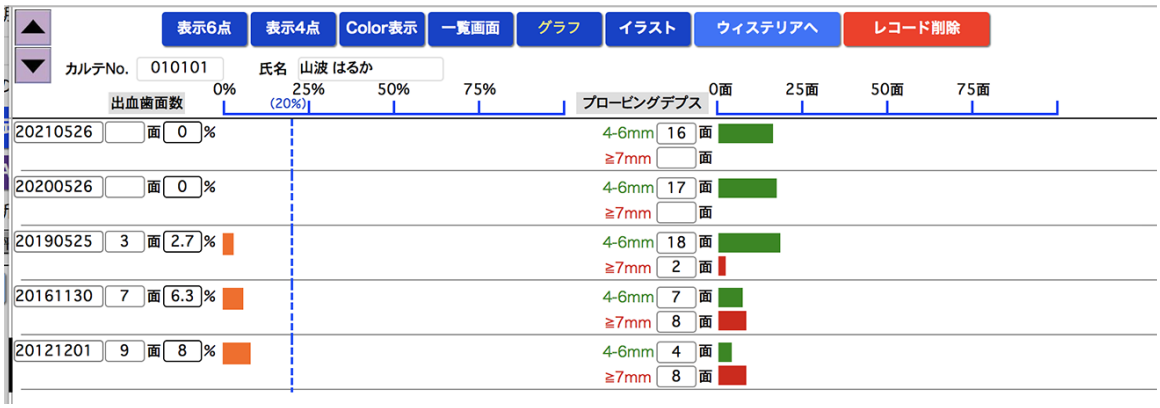
不要なレコードを削除したい場合は，削除したいレコードを選択して，この画面の レコード削除 ボタンで削除できます．レコード削除ボタンは「Color 表示画面」にもあります．

注 1 度削除したレコードは元に戻せません．削除する場合は，ご注意ください．



〈グラフ画面〉

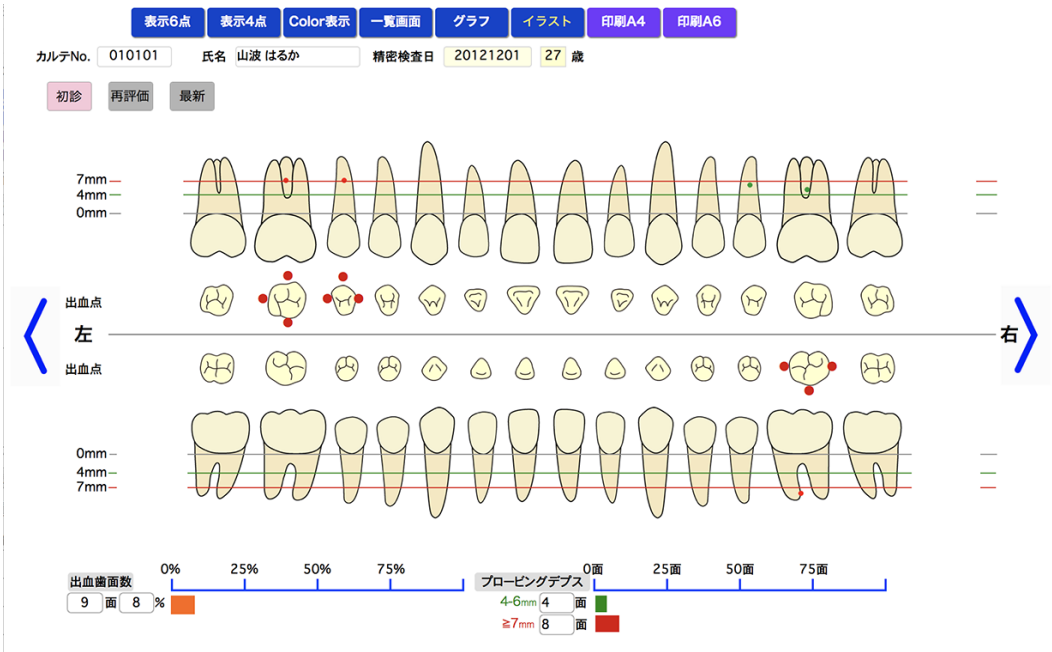
〈出血歯面数〉と〈プロービングデプス〉を棒グラフで表示します．過去の記録と比較でき，患者さんに視覚的に見せることが可能です．ウィステリアから Gragh ボタンで表示できます．



〈イラスト〉画面

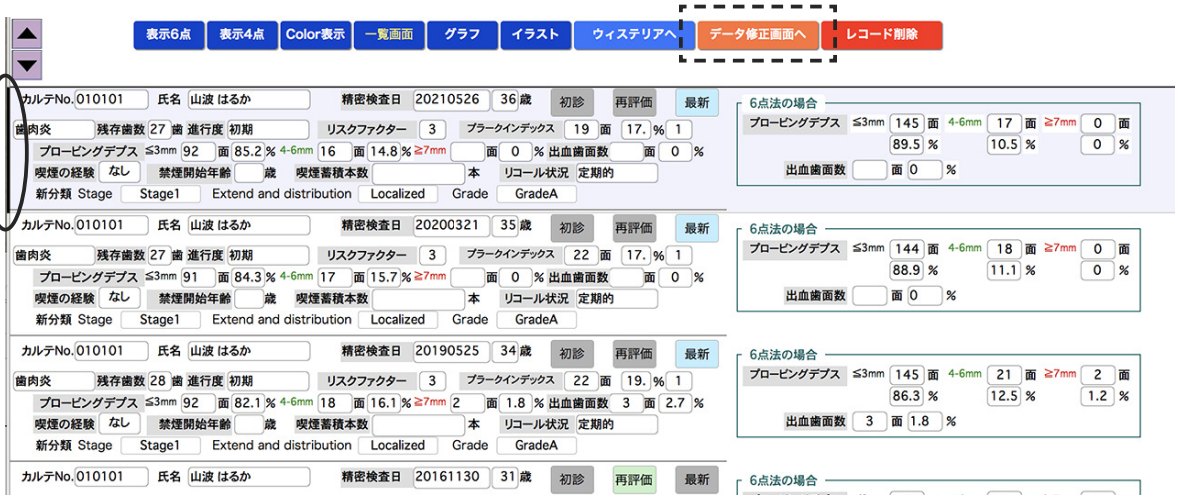
入力した出血点，プロービング値がイラスト上にポイント表示され，グラフが下に表示されます．患者さんに視覚的に説明するのに便利です．歯列の表記（左右）は患者さんがわかりやすいように，鏡で自分の口腔内を見たときと同じになっています．ご注意ください．

印刷A4 印刷A6 ボタンでイラストを含む「歯周疾患指導管理 説明書」を印刷できます．用紙サイズの設定はご自身で行う必要があります（設定にはご使用プリンタのマニュアルもご参照ください）．

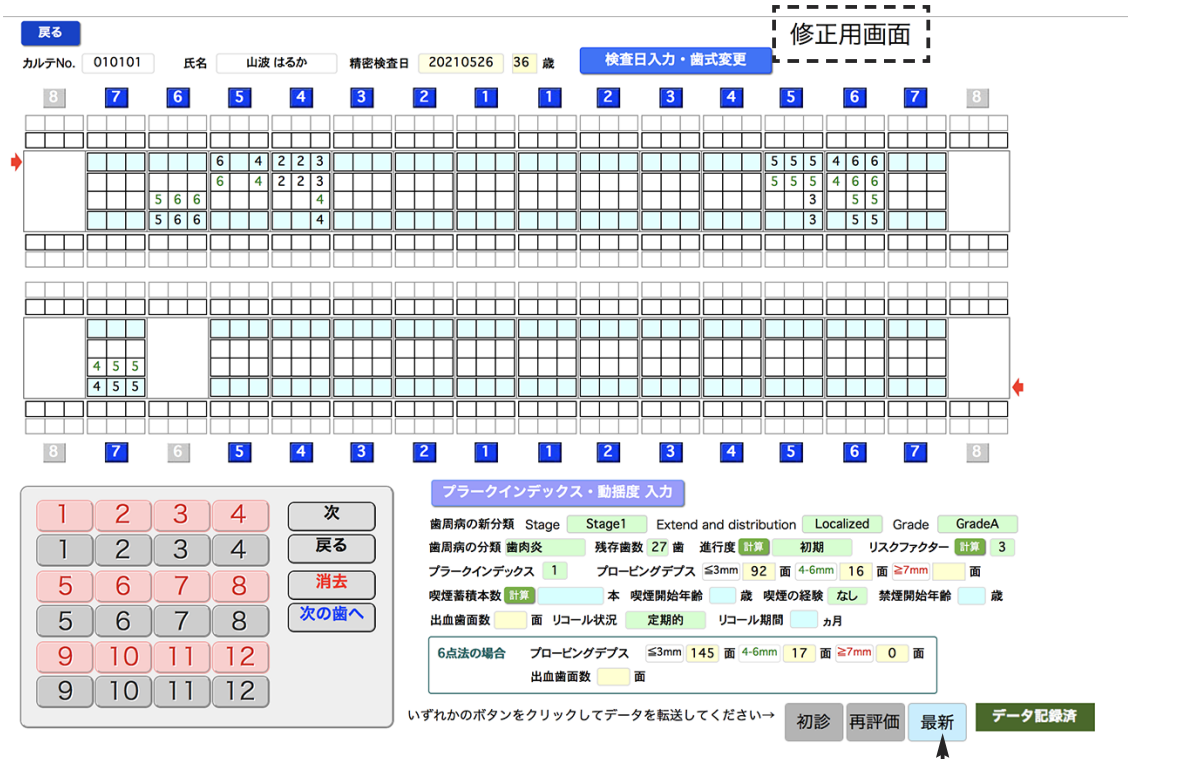


〈データ修正画面〉

既存のデータを（間違い等で）修正したい場合は，「一覧画面」で修正したいレコードを選択して，データ修正画面へ ボタンをクリックして修正画面を開きます．



修正用画面が表示されます．必要な修正が済みましたら，右下の該当するボタンをクリックしてデータを上書き保存し，一覧画面に戻ります．

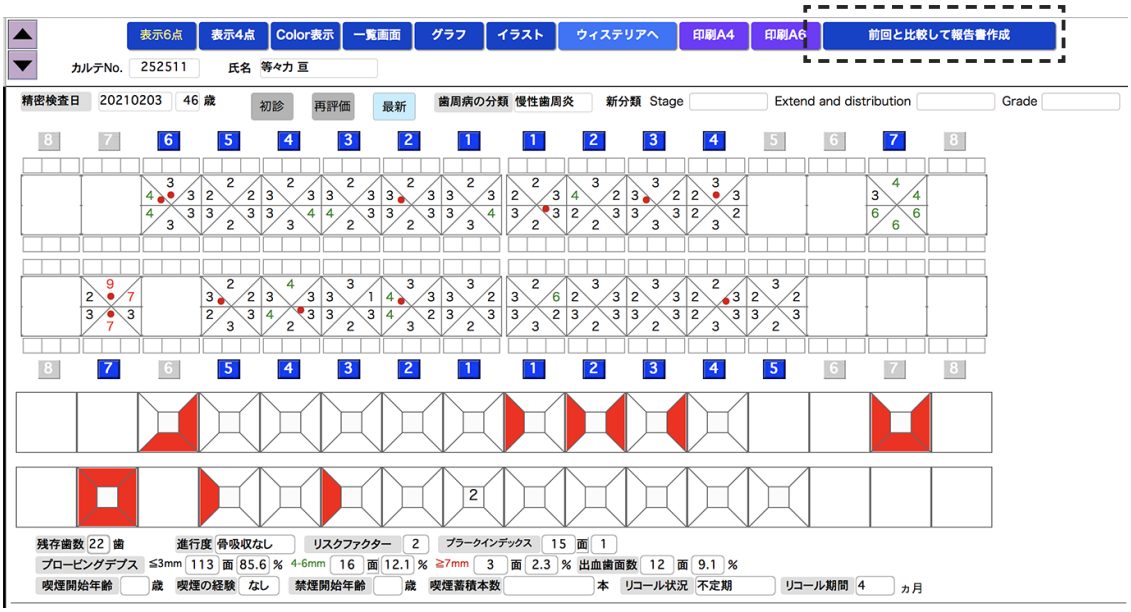


修正後，必ず該当するボタンをクリックしてください．ここをクリックせずに他の画面を開くと修正は保存されません．

報告書作成（患者評価・指導）

患者さんにお口の状態を比較して手渡せる書類が作成できます．再評価や最新で前回と比べて良くなった（悪くなった）ところを入力して，患者さんに伝えることができます．また，歯管用の書類も印刷できます．

〈表示画面 6 点〉画面の 前回と比較して報告書作成 をクリックして報告書作成画面を表示します．



比較画面が表示されます．

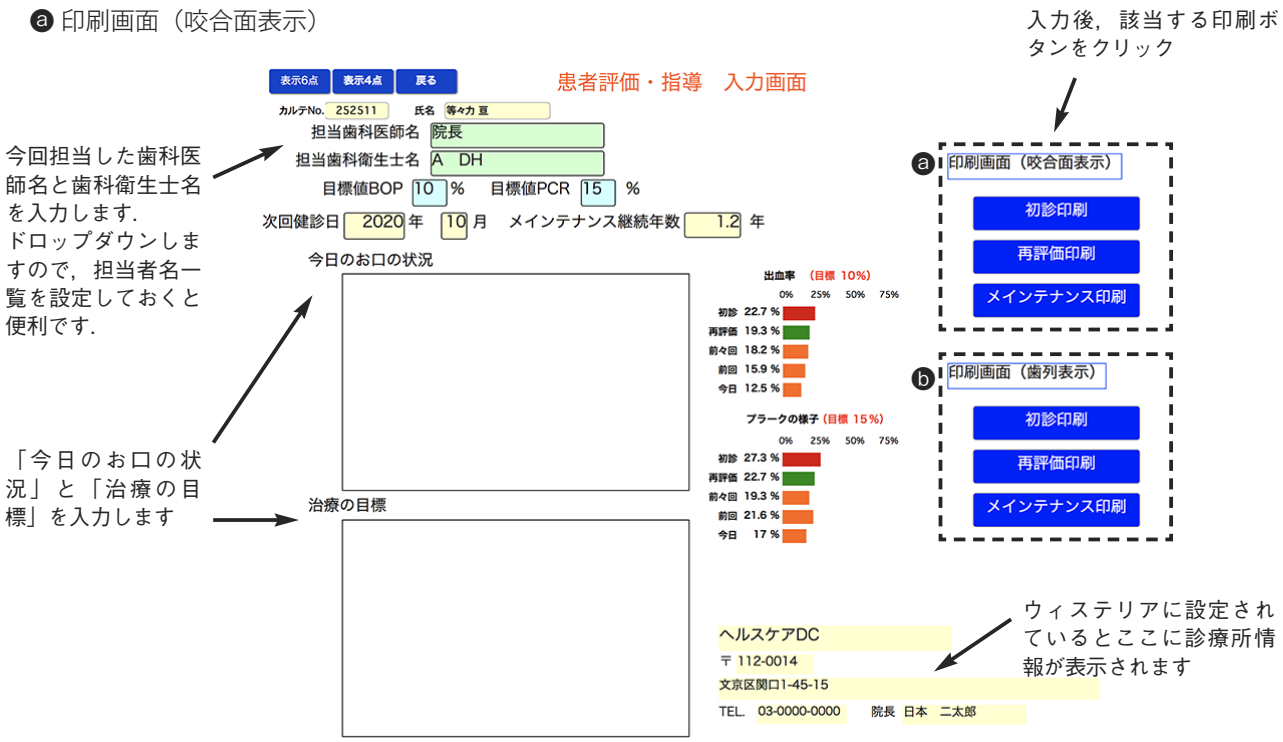


該当する歯の□枠をクリックするごとに○（赤丸：残すのが難しい歯）→○（青丸：努力して残したい歯）→○（緑丸：前回より良くなった歯）→空欄と変わります．初診時は比較するものがないので，○（残すのが難しい歯）と○（努力して残したい歯）を入力します．入力後作成したい書類のボタン 患者評価・指導入力 歯管（歯列表示）入力 歯管（咬合面表示）入力 をクリックします．

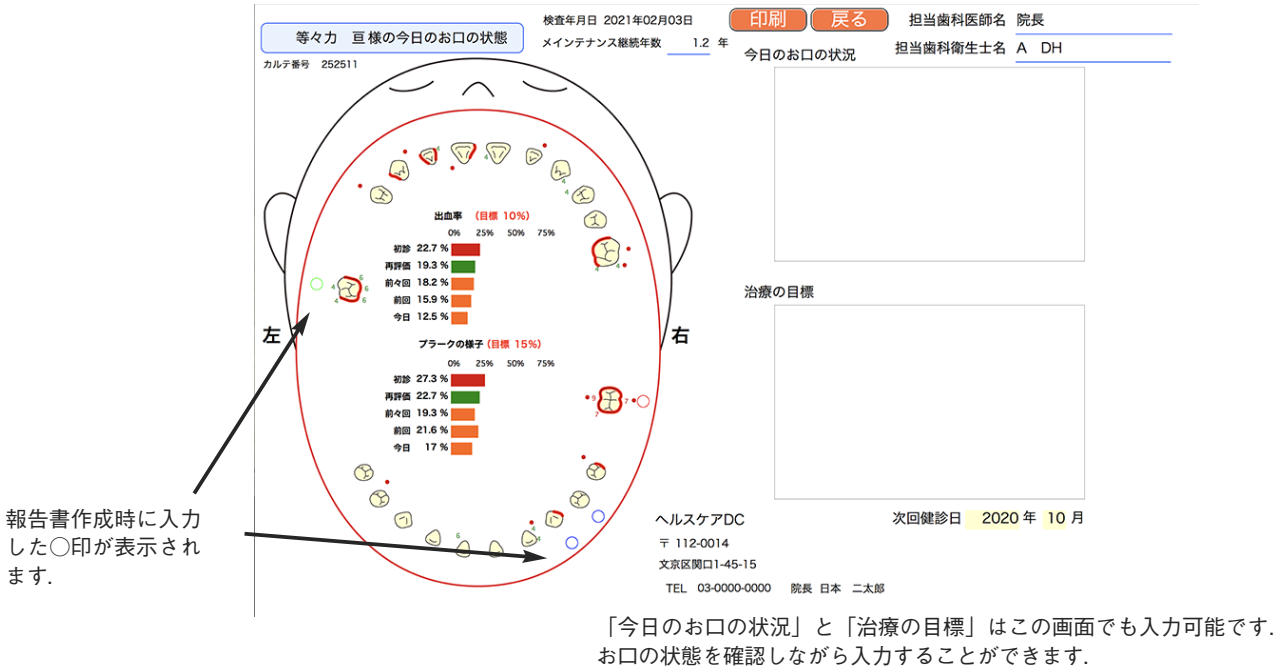
①：〈患者評価・指導入力〉

患者評価・指導　入力画面が表示されます．「次回検診日」「メインテナンス継続年数」「歯科医院名と連絡先（ウィステリアで設定されている場合）」は自動で表示されます．

ここでは「担当歯科医師名」「担当歯科衛生士名」「目標値 BOP」「目標値PCR」と「今日のお口の状況」「治療の目的」を入力します．入力後，該当する印刷画面ボタン（初診・再評価・メインテナンス）をクリックします．



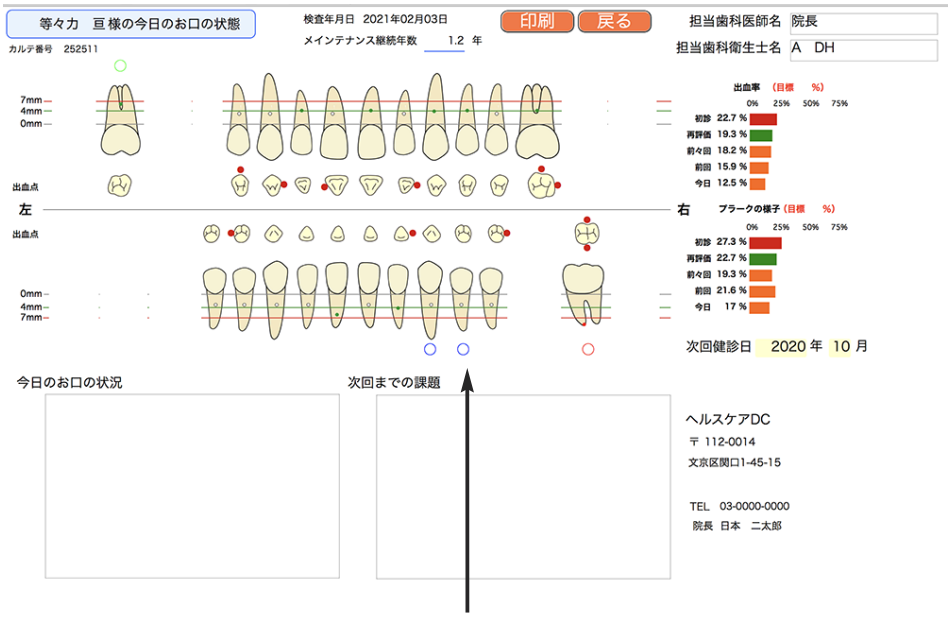
初診印刷　再評価印刷　メインテナンス印刷　のいずれかをクリックすると印刷用の画面が表示されます．（例は「メインテナンス時」画面）



注 歯列の表記（左右）は患者さんがわかりやすいように，鏡で自分の顔を見たときと同じになっています．

ⓑ 印刷画面（歯列表示）

㊟ 歯列の表記（左右）は患者さんがわかりやすいように，鏡で自分の顔をみたときと同じになっています．

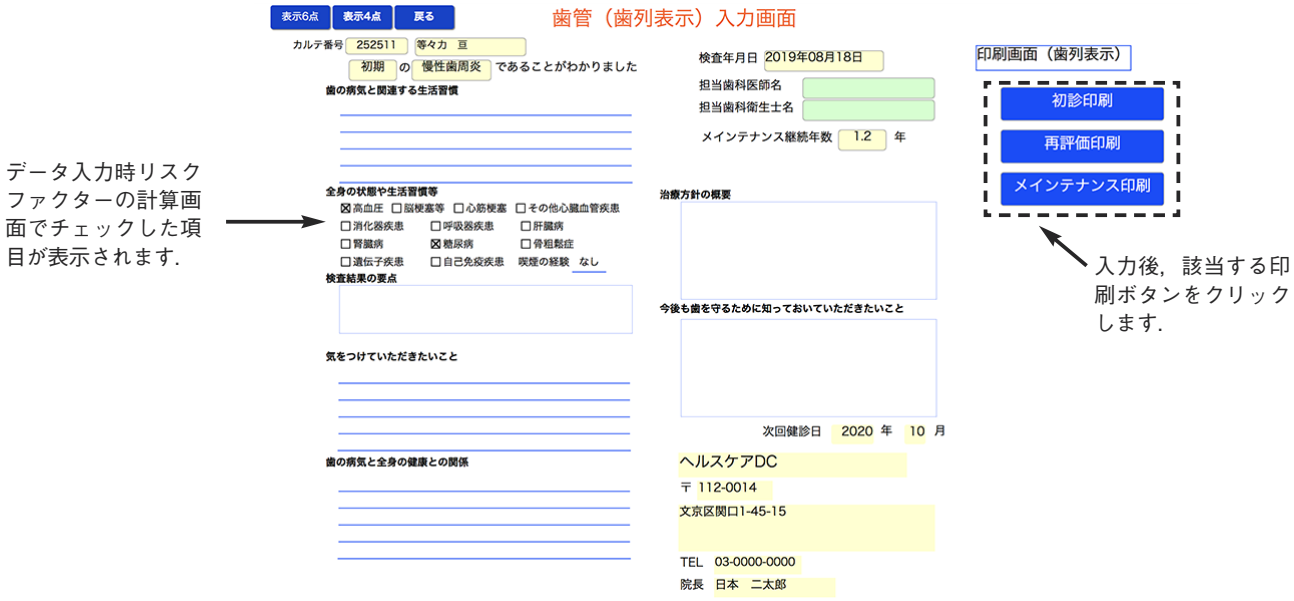


報告書作成時に入力した○印が表示されます．

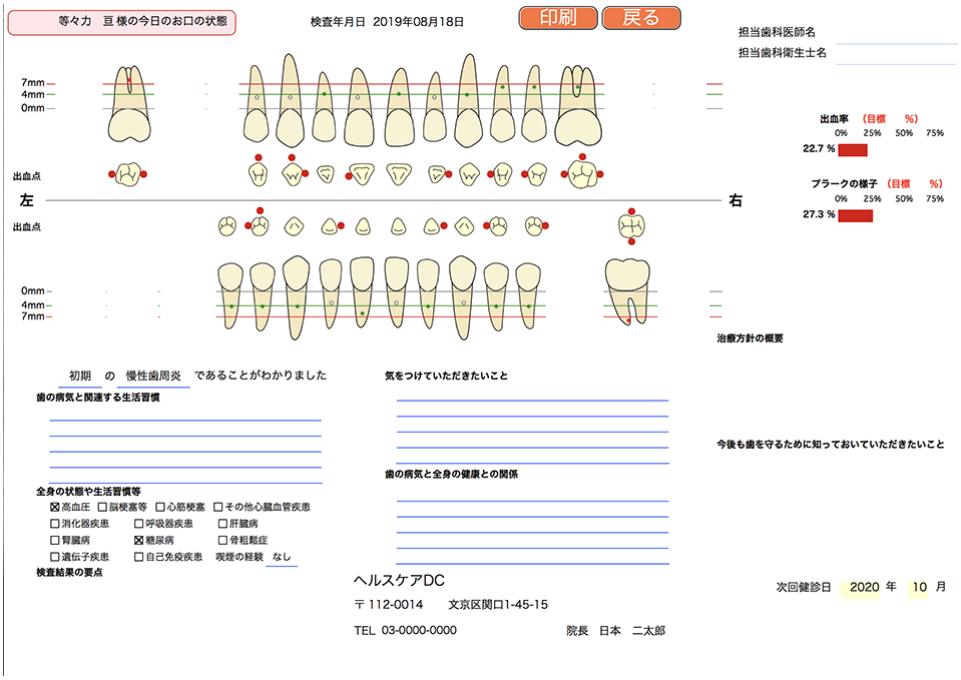
咬合面表示，歯列表示ともに上部の 印刷 ボタンをクリックすると A4 横にプリントされます（ご使用のプリンタの環境により予め設定が必要な場合があります）． 戻る ボタンをクリックすると前の画面に戻ります．

②：〈歯管（歯列表示）入力〉

歯管（歯列表示）入力画面が表示されます．「次回検診日」と「メインテナンス継続年数」「歯科医院名と連絡先」「進行度」「歯周病の分類」は自動で表示されます．「全身の状態や生活習慣等」は詳細入力時に［計算］でチェックをいれた場合に表示されます．ほか，必要な項目を入力します．



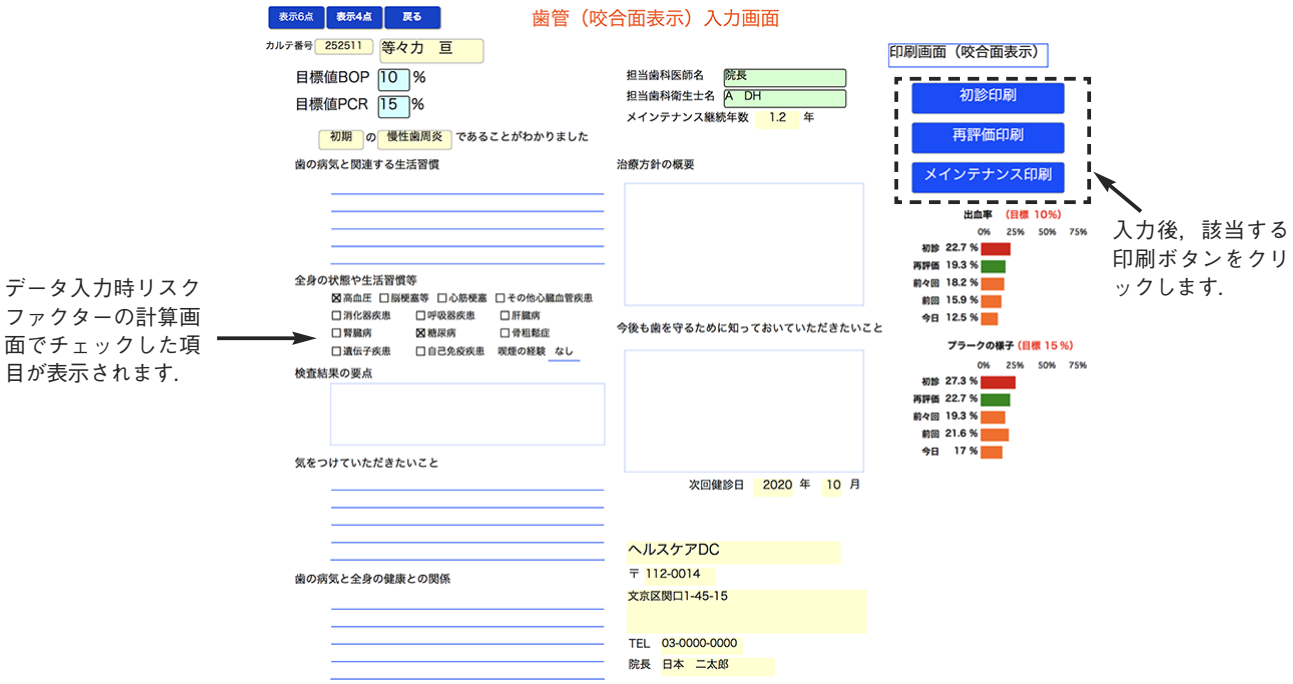
初診印刷　再評価印刷　メインテナンス印刷 ボタンをクリックすると印刷用の画面が表示されます（例は［初診時］画面）．印刷 ボタンをクリックするとA4横にプリントされます．戻る ボタンをクリックすると前の画面に戻ります．



注 歯列の表記（左右）は患者さんがわかりやすいように，鏡で自分の顔を見たときと同じになっています．

③：〈歯管（咬合面表示）入力〉

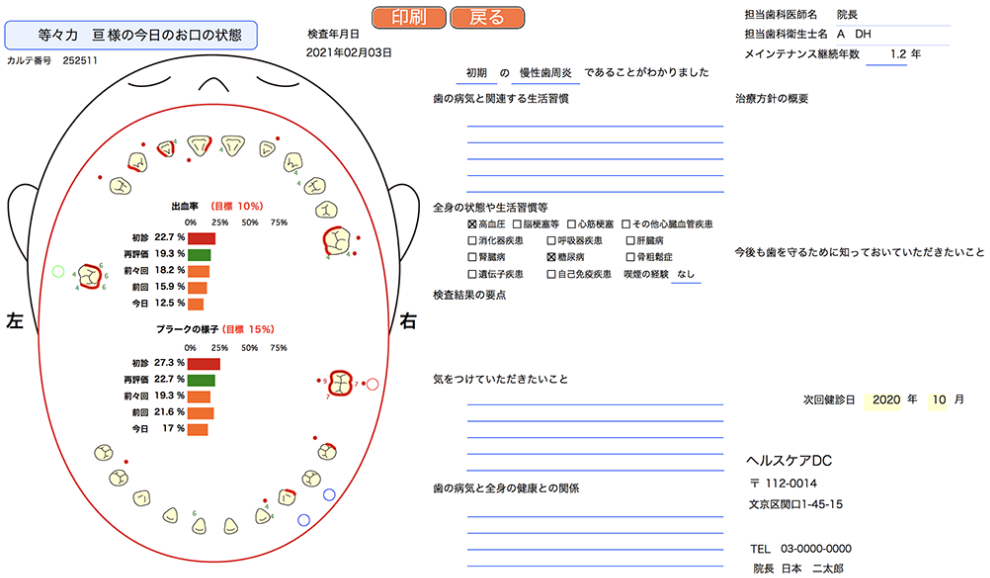
歯管（咬合面表示）入力画面が表示されます．入力は歯管（歯列表示）入力画面と同様です．



データ入力時リスクファクターの計算画面でチェックした項目が表示されます．

入力後，該当する印刷ボタンをクリックします．

初診印刷　再評価印刷　メインテナンス印刷 ボタンをクリックすると印刷用の画面が表示されます（例は［メインテナンス時］画面）．印刷 ボタンをクリックすると A4 横にプリントされます．戻る ボタンをクリックすると前の画面に戻ります．プリントの設定については，ご使用のプリンタをご確認ください．



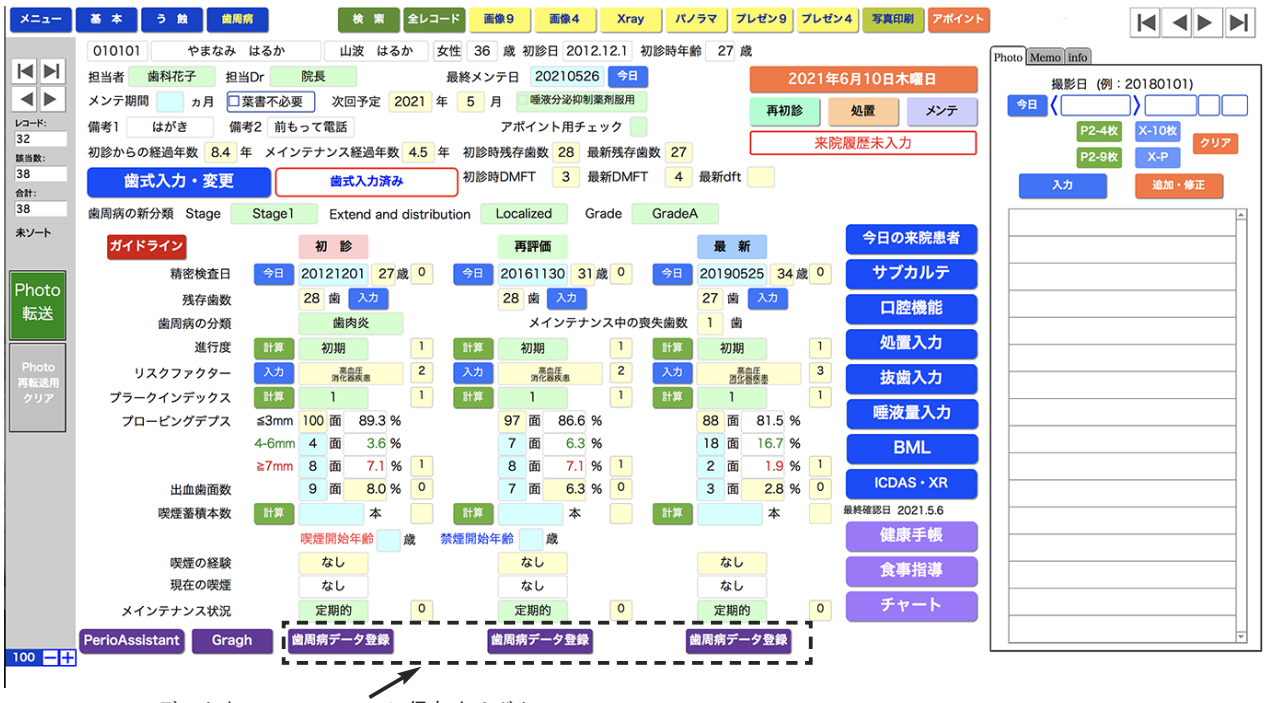
注 歯列の表記（左右）は患者さんがわかりやすいように，鏡で自分の顔を見たときと同じになっています．

ユーザーレベル２「歯周病画面」

今回よりユーザーレベルが選択できるようになりました.

PerioAssistant にはデータの保存のみ行い，詳細入力はしない場合はユーザーレベル 2 を選択します.

ユーザーレベル 2 の歯周病画面は以下のようになります．この画面の項目に数値を入力します.

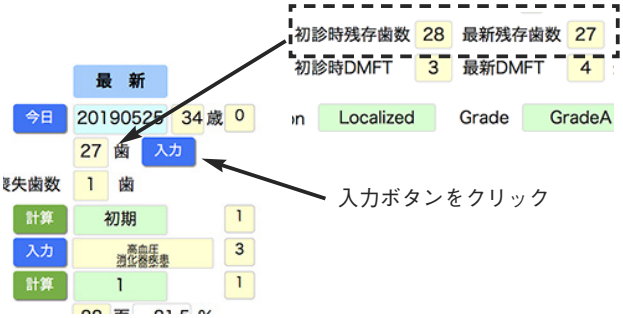


データを PerioAssistant に保存するボタン

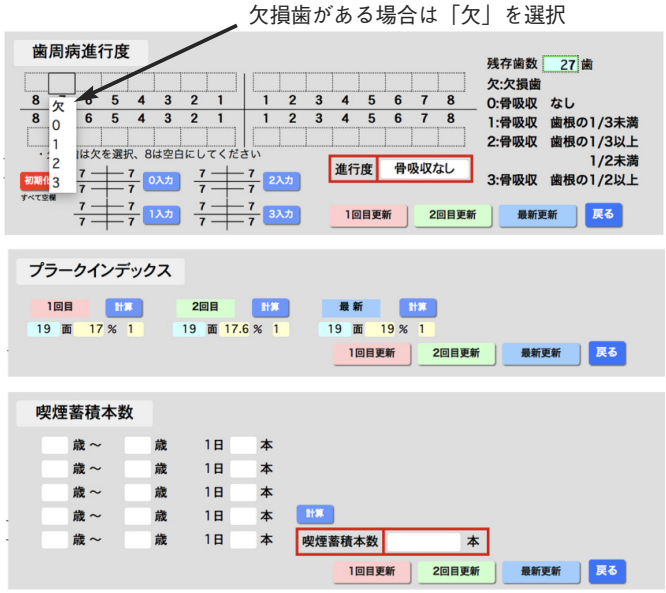
残存歯はフィールド横の 入力 ボタンをクリックすると残存歯数が歯式入力よりコピーされます.

計算 ボタンがある項目は，計算画面を利用できます.

入力方法はPerioAssistant とほぼ同じです.



注 PerioAssistant では，欠損歯は自動で非表示になっていますが，ここでは欠損歯に「欠」を入力してください.



項目を入力後，該当時期一番下の 歯周病データ登録 をクリックします．入力された項目がPerioAssistant に保存されます．3 回目以降は最新のデータのみを更新していきます.